

事業の名称（提案種別 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 <input type="checkbox"/> 行政提案型）	
座敷ぼうき製作技能伝承者の育成事業	
団体名 難波田城いきものがかり	担当課名 難波田城資料館
事業の目的	富士見市の伝統産業であった座敷ぼうきづくりについて、製作技能保持者が指導可能なうちに、行政と協働して、製作技能の継承を図る。
役割分担	【団体】 ① 企画運営 ② 講習会・巡回展等の実施 ③ ほうきづくり DVD や資料の作成 【担当課】 ① 企画・運営 ② 広報（市広報、ポスター、報道対応） ③ 受付窓口対応
事業の決算額	195,700 円（市補助金 195,000 円）

1 協働事業の実施内容について

(1) 製作技能の伝承

①アシスタント養成講習会、②技能伝承者育成講習会、③製作手順ビデオ作成、テキスト作成

(2) 座敷ぼうき文化の周知

①ミニぼうき作りイベント②市内巡回展③製作実演

2 協働事業の実施した結果について

(1) 製作技能の伝承

- ① アシスタント養成講習会（4/25. 5/9. 5/16. 6/13）9名
- ② 技能伝承者育成講習会（9/30. 10/21. 11/11. 11/25）10名
- ③ 製作手順ビデオとテキストを製作し育成講習会参加者等に配布
- ④ ほうき作り伝承会の結成（2/17）11人

(2) 座敷ぼうき文化の周知

- ①ミニぼうき作りイベント（8/19）15名
- ②巡回展富士見のほうき作り
鶴瀬西交流センターH31. 1/25～1/30（350名）・ふじみ野交流センター2/7～2/10（100名）
富士見市中央図書館 2/15～2/20（750名）・難波田城資料館 2/22～3/3（1,300名）
- ③ほうき製作実演（富士見市立中央図書館）（2/17）50名

3 団体、担当課の評価等 評価：◎よくできた ○できた △課題である

協働事業の 評価の視点	団体		担当課	
	評価	コメント	評価	コメント
協働事業を行うにあたり、互いの情報等を共有できたか。	◎	日頃の活動場所でもあり、打ち合わせを密に行い、事業を進めることができた。	◎	資料館が活動の「場」となったことで密な打ち合わせができた。互いの情報は十分に共有できた。
協働事業の目的を共有できたか。	◎	共有できた。	◎	ほぼ共有できた。

協働事業の役割分担は適正だったか。	◎	担当課は主に広報や資料作成、団体は講習会や巡回展の実施というように役割分担は適正であった	◎	互いの活動をサポートしあうことができ、単体ではなし得ない成果を挙げる事ができた。
互いを尊重し、対等な立場で協働事業を実施できたか。	◎	それぞれが得意分野を担当し、対等な立場で実施できた。	◎	実施できた。今後、団体、それに関わる市民と協働関係を継続または維持したい。
協働したことにより、他の地域や市民へ広がりがみられたか。	◎	市広報、掲示板、市 HP 発表により広く市内外の参加者や見学者が得られた。	◎	市内の広報に加え、団体の活動がマスコミ等の目に留まり報道されたこともあり、市内外にこの取り組みが周知された。

【団体の感想等】

①技能者養成講座は、募集人員を超えての申し込みがあったが、資料館で作業台を用意していただき、幅広い年齢層の参加者全員を受け入れることができた。②プレスに力を入れ、J:COM、NHK、発するFMで放送されると共に、埼玉新聞でも紹介された。③市広報ふじみで紹介していただき、巡回展・実演に多くの来場者があった。④材料のホウキモロコシ確保のための畑提供の申し出は何件かあった。今、手元にある種^{たね}の量も踏まえ来年度の作付を計画中である。

【担当課の感想等】

新たな協働事業ということで、業務内容は増えた。しかし、「難波田城いきものがかり」と協働することで、富士見市の伝統産業であったほうき作り、それを残すための取り組みを外部に向け広く情報発信ができた。またほうき作りの技を残す取り組みは資料館単独では困難であったが、協働することで、技を残すことに資料館も参画できた。また「難波田城いきものがかり」の中から「ほうき作り伝承会」ができたことで市民が自助し得る環境が整い始めた。

今回のように協働を対等の立場でし得る環境を醸成していくことに社会教育、生涯学習施設である資料館の意義が見いだせると考える。今後も積極的にこの役を担えればと思う。

座敷ぼうき技能伝承者育成事業(活動写真)

1. アシスタント養成講座(平成30年4/25・5/9・5/16・6/13) 受講生9名



浦野幸吉講師の実演



講師の指導で真似て作る



応援の元職人安藤松治さん

2. ミニぼうき作りイベント(平成30年8/19) 参加者15名(応募は2倍)



イベント参加の皆さんと指導のいきものがかり会員



イベントの様子(協働推進課担当者、ふじみ野市社会教育課担当者の視察あり)



J:COM 取材

3. 技能伝承者育成講座(9/30・10/21・11/11・11/25) 6名募集に10名応募・全員受講



伝承者育成講座参加者と講師及びアシスタントのいきものがかり会員



浦野講師実演・J:COM取材



講座4回目(皆さん慣れてきた)



元箒職人峰岸芳夫氏の指導



講習受講書の交付



NHK取材(第2回目)



市広報取材(第4回目)



富士見の箒(s58年ビデオ)

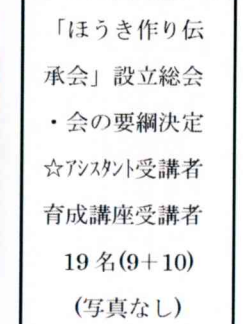
4. 伝承会の話し合い(平成30年11/25・平成31年1/19・2/17)



第1回話し合い(11/25)



第2回(1/19)



第3回(2/17)

「ほうき作り伝承会」設立総会
 ・会の要綱決定
 ☆アシスタント受講者
 育成講座受講者
 19名(9+10)
 (写真なし)

5. 巡回展「富士見のぼうき」(平成31年1/25~3/3)・実演会(2/17)

(1)コミュニティ放送「発するFM84Mhz」に小森事務局長が生出演(17分)・・・巡回展のPR(1/24)



(2)西交流センター(1/25~1/30) 来場者約 350名



(3)ふじみ野交流センター(2/7-2/10) 来場者約 100名



(4)図書館(2/15-2/20)来場者約 750名 (5)難波田城資料館(2/22-3/3)来場者約 1300名



参加者全員の商品展示

(6)浦野講師による柄付手ぼうきの実演会(図書館・2/17) 見学者約 50名



6. 技能伝承のためのテキスト類の作成

(1) 「くびり型手ぼうき」製作手順ビデオの作成



- ・製作物(伝承者育成参加者・アシスタントに配布)



A(工程別ビデオ 18分)



B(左右同時版ビデオ 38分)

(2) 「くびり型手ぼうき」製作手順書の作成

①製作手順概要版の作成

A-4版

4ページ

平成30年7月作成

(アシスタント講座を基に作成)

伝承者育成講習会で配布



②製作手順完成版の作成

A-4版

10ページ

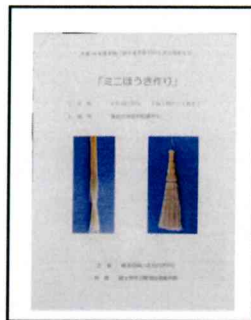
平成31年2月作成

(概要版に下記を追加作成)

- ・ぼうき各部位の寸法と位置(職人技の数値化)
- ・製作過程における重要ポイント
及び使用する道具の自作のポイント(講師の言葉の書留)
- ・受講生全員に配布
(平成31年以降の講座でも増刷して使用したい。)



- (3) ミニほうき作りの手引き
 (説明配布資料 A-4 版 5 ページ)
 ・富士見のほうき作りの歴史・
 ミニほうきの作成手順



- (4) 育成講座
 (説明配布資料
 A-4 版 3 ページ)
 (富士見のほうき作り
 の歴史)



7. その他資料

- (1) ポスターの作成
 ・ポスター(A-3 版)



ミニほうきづくり募集



伝承者の募集

- ポスター掲示個所
 ①公民館
 ②コミュニティセンター
 ③図書館・資料館
 ④ラ・ラポート
 など 14 か所



巡回展と実演会案内

- (2) チラシ作成
 ・チラシ



巡回展と実演会案内

- ⇨巡回展実演案内
 巡回展各会場
 にて配布
 A-6 版
 両面印刷

- 育て方・作り方⇨
 タネを所望した人
 に難波田城資料館
 でタネと共に配布
 A-6 版
 両面印刷



ホウキモロコシの育て方
 「ミニほうき」の作り方

8. パブリシティ

- (1) テレビで放送



- ⇨放送された映像
 ①J:COM ミニほうきづくり
 (平成 30 年 8 月)約 5 分
 ②J:COM 箒作り伝承
 (平成 30 年 9 月)約 5 分
 ③NHK 箒作り伝承(平成 30 年 10 月)約 1 分

- (2) 広報ふじみ

- 広報ふじみ
 2 月号で「富士見
 伝統の逸品」として
 紹介されました



(3) 資料館で「富士見の箒づくり」上映

昭和 58 年制作

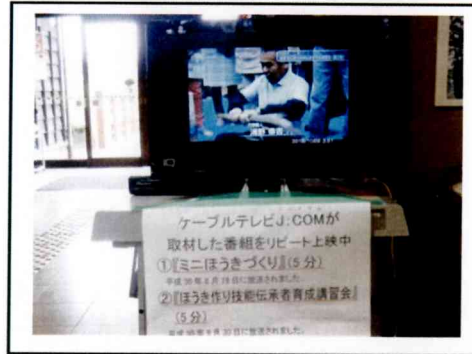
- ・ 富士見市図書館ビデオ講習会作品
 箒商「浦野産業」と現職箒職人「竹内 氏」
 を取材した作品 約 16 分
- ・ 昭和 58 年当時の箒産業の現状がよくわかる。



←浦野産業取材
左:浦野幸吉氏
右:取材する小森

(4) 巡回展で J:COM で放送の映像を上映

- ・ J:COM は上映許可が 得られたが、NHK は
 著作権料が発生するとの回答で断念した
- ・ ミニほうき作り 約 5 分
 取材 平成 30 年 8 月 19 日
- ・ 伝承者育成講習会 約 5 分
 取材 平成 30 年 9 月 30 日



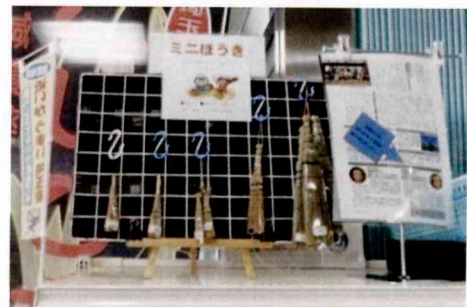
(5) 埼玉新聞で「富士見の箒づくり伝承の取り組み」を紹介(3/24(日))



9.現代に合った商品の開発

(ミニほうき、ミニミニほうきの販売)

3/1 より、市役所内売店「ゆい」に
商品陳列



10.技と文化の伝承に向けて

「ほうき作り伝承会」参加者確定(3/23)



参加 11 名 [アシスタント(4)・育成受講者(7)]

11.その他

ミニほうき作り、伝承者育成講習会への事前学習



平成 30 年 7 月 7 日
「ミニほうき作り」
イベントに備えて事
前学習会を実施



平成 30 年 9 月 14 日
「伝承者育成講習
会」に備え、概要版
テキストに沿っての
事前学習を実施

収 支 決 算 書

採択協働事業の名称 座敷ぼうき製作技能伝承者の育成事業

1 収入の部

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
市補助金	195,000	195,000	
自己資金	0	700	不足額負担
合 計	195,000	195,700	

2 支出の部

(単位 円)

科 目	予算額		決算額		摘 要
		うち補助対象額		うち補助対象額	
委託費	20,000	20,000	35,000	35,000	手順ビデオ製作委託費
報償費	45,000	45,000	45,000	45,000	ぼうき作り指導と実演(延べ9回)
原材料費	88,000	88,000	97,366	97,366	ハウキモロコシ・針金・糸 他
印刷製本費	20,000	20,000	0	0	自己印刷・用紙代は消耗品費で処理
消耗品費	5,000	5,000	10,162	10,162	ぼうき製作用具・用紙・クリップ 他
役務費	5,700	5,700	0	0	資料館が加入している保険で対応可と判明
食糧費	11,300	11,300	8,172	8,172	講師弁当代 他
合 計	195,000	195,000	195,700	195,700	